

# イギリスにおける特別な教育的ニーズに応じる教育と生涯学習 ーハートフォード州及びイギリス自閉症協会の取り組みー

齊藤宇開 ・ 徳永 豊 ・ 小塩允護  
(国立特殊教育総合研究所)

## 訪問先

- A: イギリス自閉症協会 (NAS)  
11/15 (水) NASマイク・コリンズ氏へのインタビュー  
11/16 (木) NASプロスペクツ訪問
- B: イギリス自閉症協会 (NAS) 運営の学校  
11/13 (月) ラドレット・スクール (小)  
11/15 (水) シビル・エルガー・スクール (中・高)
- C: ハート・フォード州教育委員会  
11/13 (月) スペシャル・アドバイザー・サービス 訪問インタビュー
- D: ハート・フォード州立学校  
11/14 (火) キルグリュウ・ジュニア・スクール (統合)  
11/14 (火) セント・ルーク・スクール (特別学校, 中・高)  
11/17 (金) ウール・グローブ・スクール (特別学校, 幼・小)

## I. 本調査の意義

- ・生涯学習に関するイギリスの現状と課題について実態調査する。
  - ・NASの運営している自閉症学校 (小, 中高) について実態調査する。
  - ・統合 (インクルージョン) 教育の実施校を訪問し, その実態を調査する。  
→今回の調査の視点は以下のとおりとする。
- 1 サッチャー,ブレアの行った教育改革から,生涯学習の視点を含んだ特別支援教育の体制づくりの現状について,各機関を訪問することで明らかにする。
  - 2 当事者団体であるNAS主導の学校運営や特別支援の推進が,生涯学習にどのように寄与しているか,NASの運営する学校及び本部を訪問することで明らかにする。
  - 3 IEPベースの,教師の自由度が高いとされているイギリスにおいて,ナショナルカリキュラムに基づく教育課程の作成に関する現状と課題について明らかにする。

## イギリスに関する事前調査 (文献調査)

参考にした資料は以下のとおり

- ①各訪問先のHP資料
- ②英国自閉症研究の源流 久保絃章著 相川書房
- ③自閉症ガイドブック 別冊 海外の自閉症支援

日本自閉症協会編

- ④children with autism :North West Regional Special Educational Needs Partnership  
(ダウンロードファイル ; <http://www.sen-northwest.org.uk>)
- ⑤Autistic Spectrum Disorders Good Practice Guidance  
(ダウンロードファイル ; <http://www.teachernet.gov.uk/management/sen/>)
- ⑤徳永豊氏の資料 (2005.1.24訪問時)
- ⑥英国の行政からみた自閉症支援 日本自閉症協会 千葉県支部編
- ⑦英国教育改革調査報告書 三重県教育委員会  
平成12年12月26日

## II. 英国と学校教育について

### 1. 英国の概略

グレートブリテンおよび北アイルランド連合王国, 通称イギリスまたは英国は, 西ヨーロッパの北海に位置している。イングランド (England), ウェールズ (Wales), スコットランド (Scotland), 北アイルランド (Northern Ireland) の四つの非独立国の集まりである。単に連合王国 (United Kingdom, 略してUK) ともいう。日本から東南へ約9000km離れた南太平洋にある島国である。面積は27万524km<sup>2</sup>で日本の約3/4, 人口は4,108,092名

(2005年11月現在) となっている。

## 2. 特別支援教育の概略

英国では、障害という概念でなく、教育学的概念である「特別な教育的ニーズ (SEN)」の概念を使用。SENは連続的概念であり、障害があるかないかの2分法ではない。通常教育と明確に区別された「特別ニーズ教育」はない。障害という概念でなく、SENという概念で、より幅の広いSENに応じた教育を提供している。教育の目的や目標は、独自なものがあるわけではなく、通常の教育と同じである(ウォーノック報告, 1978年)。

障害がある子どもの在籍率は、特殊学校が約1.1%で、特殊学級は設置されていない。通常学級には判定書(statement)保有者3%, 20%の子どものSEN(特別な教育的ニーズ)がある。日本の通級に近い制度としてユニット(リソースルーム)があり、本文で紹介する「Autism Base」も、その一例である。

早期の段階において、保護者を含めて、関連する専門家の協力を得て、判定書(statement)を地方教育局の責任において作成し、14歳以降に「個別の移行支援計画」も作成する。より具体的な「個別の指導計画」については、判定書のある子どもを含めて、SENのある子どもについて作成している(約20%弱)。生涯学習についても「個別の学習計画」を作成しているところがある。

また、小中学校に特別な教育的ニーズコーディネーター(SENCO)がいて、学校のSENに関する教育方針を実行する役割であり、校内の支援体制を調整する人である(2001年実施規則)。校内における教育支援を調整することが主たる役割であり、一部として、外部教育機関、福祉・医療機関との連携も役割に含まれる。教育に関する支援の調整役であり、教師の資格を持つ主任以上の立場の人で、学校全体の取組に対して、責任を持つ。(特別学校にはSENCOはいず、SENCOは、福祉・医療機関との連携を主とする役割ではない。)

## Ⅲ. ハート・フォード州及びイギリス自閉症協会の「生涯学習」の取り組み

### 1. イギリス自閉症協会(NAS)の取り組み

#### (1) 自閉症協会(NAS)本部

1) マイク・コリンズ氏から、はじめに



The National Autistic Society (NAS)

NASには四つの「目的」、①直接的な(本人向けの)サービス、②家族への支援、③研究、④政治的な圧力、がある。およそ10年のプランで取組を行っている。その決定は役員会議にて行われる。

①は、NASの運営する六つの学校がある。およそ800人の成人のケアを行っている。②については、「Early Bird」という仕組みで、診断を受けてから10週間の研修コースが各地域に設定されている。小学生や若者などの遅い診断を受けた子どもに対しては、「Help」という研修制度を持っている。友達作りの場も設けている。もう一つ「ヘルプライン」というボーダフォンがスポンサー(300万ポンド)の電話サービスがあり、訴訟にも弁護士が対応している。

「Make school make sense」キャンペーンは、会員向けのアンケートで回答された1000の回答のうちから選ばれたものである。①全ての子に合った学校、②教員向けのトレーニング、③自閉症への理解があったが、その中から選ばれたのが「Make school make sense」である。これはDVDのパックや小包などを送って知らせるものであり、政党に限

らず学校にも送っている。ウエールズ，スコットランド，北アイルランドでもキャンペーンを行っている。

事前に用意した質問に対してコメントをもらった。

### 〈質問事項〉

- 1 NASの最新の最優先課題について
- 2 NASの運営の学校について聞きたい
  - ①教育課程についての必要性とレベル（どこまで詳細な教育内容を明確化する必要性を感じているか）
  - ②教師の採用プロセスとトレーニング方法（そのシステム）
  - ③IEPで頻度の高い教育内容のトピックを10くらい挙げてほしい
- 3 NASが取り組む学齢期と早期の親支援について
  - ①メンター；親同士が支え合う仕組みは持っていますか
  - ②世代の違いは？親同士の支え合う仕組みの変化は？
- 4 成人のケアと教育のための通所・入所センターについて
  - ①最新の最優先課題は？
  - ②生涯学習（成人期の教育）に関する取り組みは？

### 〈質問への回答〉

- Q1**；NASの最新の最優先課題について  
**A1**；課題はたくさんあるが先に述べた四つの目的を元に取り組んでいる。「Make school make sense」がキャンペーン。
- Q2**；NASの運営の学校について聞きたい  
①教育課程についての必要性とレベル（どこまで詳細な教育内容を明確化する必要性を感じているか）  
**A2**；①Good Questionだ。ナショナルカリキュラムは14歳までだが正式には落としてもいい（日本と同じように柔軟に対応して良いということだろう）。かなり学習能力が高くても，科目名を工夫するなどして分かりやすくしている。実施されているカリキュラムは各学校に任せている。重度の自閉症があってもGCSE（資格試験）の試験を受ける子もいる。昔から予想していたことだが，自

閉症スペクトラムの子どもの問題はとても複雑になっている。多くの子どもがメインストリームしているので，その対応も複雑化している。たくさん自閉症が存在するがナショナルカリキュラムから離れている特化した状態であることが多い。NASの運営の学校の中のヨークシャーの在籍児童生徒のうち三分の一は全ての学校から排除されてしまった子である。スペシャルスクール（養護学校）も含めて，途中で入学してくる子どもも確かに存在するのが実態である。それに対応して，教育内容を様々な出版物やマニュアルで理解啓発を促している。

また，マイク・コリンズ氏は，政府の監査官としての資格を公募で取得しており，ナショナルカリキュラムがいかに工夫されているかをチェックできる立場にある。ナンバーは1899番であり，学校へは写真付きのパスがあればいつでも入ることができる。

②教師の採用プロセスとトレーニング方法（そのシステム）

NASの教員の資格認定は，教員の資格を持っていることや教科別の専門がある人もいる。20年前に制度が変わって，他の公立の学校と同じ待遇になった。

SPELLのフレームワークでトレーニングをする。長年かけて要請されるので，公立校からも重宝される人材である。異動は安定しているが，ロンドン周辺地区のみがAUやNZからの先生も多いので3年サイクルで異動があることもある。

③IEPで頻度の高い教育内容のトピックを10くらい挙げてほしい。特に早期教育について。

(1)「SPELLのフレームワーク」が基本であり，続いて，(2)「自分たちの管理」これは主に急なストレスがかかってきた時に応じることができたり，質問できたりする能力で，セルフマネジメントとサバイバルスキルが合わさった感じか？次は(3)「フォーカス」の問題で，低い覚醒の下で，何を見るべきかが分かるためのもの。(4)は「視覚優位の活用」であり，色を有効に使うカラーキーなどの取り組みもしている。(5)は「明確な言語指示」など学校の中で自閉症の理解を進めるために短い文で伝えるなどの内容である。

**Q3**；NASが取り組む学齢期と早期の親支援について

### A3:

①メンター；親同士が支え合う仕組みは持っていますか？

「Early Bird」という仕組みで、診断を受けてから10週間の研修コースが各地域に設定されている。小学生や若者などの遅い診断を受けた子どもに対しては、「Help」という似たような研修を持っている。友達作りの場も設けている。もう一つ「ヘルプライン」というボダフォンがスポンサー（300万ポンド）の電話サービスがあり、訴訟にも弁護士が対応している。

②世代の違いは？親同士の支え合う仕組みの変化は？

イギリスでは現在の方が改善されている。親同士のサービス「Early Bird Group」は、6～10家族単位で構成していて、終了後も長年にわたり友好関係を持っていることが分かっている。イギリス全土及びNZで取り組まれているが、日本ではまだ行われていないと聞いている。

### Q4：成人のケアと教育のための通所・入所センターについて

①最新の最優先課題は？

②生涯学習（成人期の教育）に関する取り組みは？

「プロスペクツ」という高機能自閉症とアスペルガー症候群のための就労支援センターに取り組んでいる。14歳以上がどうしても課題である。私たちも自閉症のある子どもたちが14歳以降も能力を伸ばせることを固く信じている。

一にも二にも成人の問題はお金で、資金を増やすべきだ。今は、Adultサービスを担うスタッフのトレーニングに力を入れている。自閉症の診断が明らかになってから療育を受けてきた人がようやく大学生になってきた段階であり、それに向けてどのようなサポートをするべきかである。

### (2)「プロスペクツ」(NAS運営の高機能自閉症及びアスペルガー症候群のための就労支援センター) 訪問



先日のマイク・コリンズ氏に、お願いして、「プロスペクツ」のNoel Hastings氏へのインタビューを行った。

日本自閉症協会が海外情報としてまとめたりチャード・ミルズ氏の寄稿文を参考に、質問項目を以下のように設定し、回答を得た。

Q1；対象の人数は？

A1；330人の対象者のうち、177人がフルタイム就労している。177人以外の方は、ボランティアや、教育機関に通っている。教育機関とは、いわゆる学校ではなく、職業関係の機関で、例としては、植物の管理や保健について学ぶなどしている。

Q2；対象年齢は？

A2；16歳から65歳まで。最高齢で67歳の人がいた。現在は57歳。

Q3；離職者の状況は？

A3；プロスペクツのプログラム終了前に去るケースや、意識的に辞める人、連絡が途絶えてしまう人などがいる。

Q4；ジョブコーチは何人いるのか？

A4；11人のスタッフのうち、全てがサポートと就職斡旋を担っている。つまり全てがジョブコーチである。その他のスタッフはボランティアで資金集めをしているか、経理である。

Q5；基礎的な質問で申し訳ないが、日本のように法定雇用率1.8%などの決まりはあるか？

A5；イギリスでは、1995年までその制度があったが、今は廃止された。2005年に障害者差別禁止法が制定され、それが彼らの権利を守っているかたちになる。その禁止法では、職業人として不足無い技術を持っていた場合、障害を理由に昇進等を

阻止してはならないことがある。この法律はイギリスにおいて、障害者を差別しない文化を創り上げようとするものである。

**Q6** ; NBQ (国の資格) を持っていますか？

**A6** ; ほとんど資格を持っていない人から、ケンブリッジ大学の数学のファーストを二つ持っている人もいる (それは天才の域らしい・・・)。

**Q7** ; 全国の支部について教えてほしい？

**A7** ; ロンドン, マンチェスター, グラスゴー, リーズの4カ所のみで, 330人を対象にしているロンドンが最大級である。成人した人のケアサービスは足りていないのが現状である。

**Q8** ; 対象は, 高機能自閉症及びアスペルガー症候群に限定されているのですか？

**A8** ; 一般的に, 高機能自閉症及びアスペルガー症候群に限定している。診断を持っている人たち。ボーダーの人もある。ただしまれにLDや精神疾患の人もある。(イギリスでは, LDをどのように解釈しているんですか?) ラーニング・ディフィカルティとラーニング・ディスアビリティは同じ解釈で用いられることが多い。ただしMRは古い感じがするので, 使わないケースが多い。

**Q9** ; 大学を卒業した人がいると思うが何割ですか？

**A9** ; 大学卒業者は40人, ロンドン在住が条件である。全クライアントの20~25%が大学卒業資格を持っており, 大学での支援が重要課題である。

**Q10** ; 大学との連携は？

**A10** ; 今のところ少ないが, サブプロジェクトとして, 「トランジションズ」がある。大学に人脈を作るのが主目的で, ディスアビリティ・オフィサーをコーチングしていく。そのためにプロスペクツに呼んだり, 訪問したりしている。ディスアビリティ・オフィサーは多忙で, 例えば近くのLSE大学では, 一人で600人の障害者を担当している。あまりアスペルガー症候群等を理解していないが, NASの訪問はたいへん喜ばれることが多い。

**Q11** ; 日本では一般就労させればそれでよしとした傾向があったが, その反省として職場の支援だけでは足りず, 生活の支援も同時に必要なことについてどう考えますか？

**A11** ; とても良いポイントだ。就職が第一の仕事ですが, 必然的に生活も助けている。常にジレンマだが, 生活の支援は管轄ではないことを

伝えている。夜中の二時過ぎに電話をしてくる人もいるが, セラピストや, Cognitive Behavior Therapy 等に頼むことにしている。

**Q12** ; 177人の就職者の暮らしについて聞きたい？日本のようにグループホームなどもあるのか？

**A12** ; 結婚して家庭を持っている人もいる。大多数が家族 (親) と住んでいるか, 一人で住んでいる (同居人は居ない)。グループホームは, 2ヶ所しかないが利用している人もいる。

**Q13** ; 住まいを見つけるのはプロスペクツの仕事ではないことは分かったが, NASにはあるのか？

**A13** ; もちろんNASにはその分野があるが, ヘルプラインサポートなど, 全体的な枠が多い。ほとんどがソーシャル・ワーカーからの支援を受けている。なお, ソーシャル・ワーカーの範囲は, パーラー (borough) という地域単位であり, その単位で教育事務所もある。

**Q14** ; 一般の人と出世は一緒ですか？

**A14** ; 給料や年金はもちろん一緒である。昇進は差別禁止法が支えているが, 管理職などは対人関係の問題で, 難しいようだ。

**Q15** ; 障害者手当は付きますか？働かない方がお金をもらえるケースがありますか？

**A15** ; 仕事をしていない場合は, 障害者手当をもらえる。イギリスはその制度が複雑でなかなか説明しづらいが, 日本と同様に, 働かない方がお金をたくさんもらえるケースもある。様々な免除制度や高額な支援が得られることもある。働くことに対してくじけているケースもある。

**Q16** ; 働く意欲がまだ固まっていない人には？

**A16** ; そのためのコースを用意している「Access to employment for people with autism」, 働く意欲を造り出す第一歩のためのコースである。このコース以降は, プロスペクツのコースに移行する。経験的には, 仕事をするという枠組みに価値を見いだす人が多い。

**Q17** ; リチャード・ミルズ氏の寄稿された資料では, 就職先の割合で事務職が60%以上を占めているが, 事務職の内容について教えてほしい。

**A17** ; 対人関係の問題があれば, ポスに掛け合っただけで対応し, データ処理など得意なことに替わってくれと依頼することがある。プロスペクツの職員の主な仕事といっても良い。あくまで一人一人の希望を尊重していて, 事務職はその結果である。多くは社会的な経験から仕事が決まってくると考

えている。

**Q18**;特別な職種を考えたりはしませんか?スウェーデンではコンピュータの取り組みを見ました。

**A18**;多くは、本人たちが興味のある仕事を斡旋してほしいと言ってくるので、こちらから斡旋することはない。時刻表が好きな人がいて、鉄道会社に斡旋し、インフォメーションの仕事についてた人もいる。スウェーデンのようなものはイギリスではない。いくつかの企業と手を組んでいるので、ワークエクスペアランス(職学体験)をしながら、探すことはあるが、あくまでも本人の希望に添うかたちを取る。

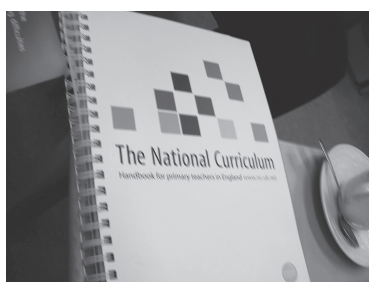
## 2. イギリス自閉症協会(NAS)の学校の取り組み

### (1) Rudlett Lodge School(ラドレット・ロッジ・スクール)

#### 1) カリキュラムについて

NASの運営する学校ではあるが、NATIONAL CURRICULUMに準じている。

指導のキーワードは「インディビジュアルモデル」。一人でできることがどれだけ多いかがポイントである。また、人間関係も構造化やスケジュールを用いて具体的に教えるようにすることが大切である。また、理解してもらうように、周囲の人に働き掛ける必要もある。



CLASS	UNIT/TEXT					
	Year One Autumn	Year One Spring	Year One Summer	Year Two Autumn	Year Two Spring	Year Two Summer
Early Years	The cat sat on the mat	My house	Big shoes of Nursery Rhymes	Task-based Evidence	Non-fiction 2 Animal eggs	Fiction 2 What is in the box?
Class 1	Fiction 1 The first idea pig	Non-fiction 1 The drop gone	Non-fiction 1 The Runaway	Fiction 1 Big book of Rhyme	Non-fiction 2 Non-fiction 2	Fiction 2 A visit to the zoo
Class 2	Fiction 1 Jack's Beans	Non-fiction 1 Animal Zoo	Non-fiction 2 TBC Mammals	Non-fiction 2 Non-fiction 2	Fiction 1 Classic Poem	Fiction 2 This is the Bear
Class 3	Task-based The first idea pig	Non-fiction 1 Ethical and Animal	Fiction 1 Jack's Beans	Non-fiction 2 Non-fiction 2	Classic Poem Book One	Fiction 2 I've seen the Bear
Class 4	Fiction 1 The very hungry caterpillar	Non-fiction 1 The World Book	Non-fiction 1 The Dictionary	Multi-cultural Fiction 1 Surprise	Fiction 2 What's your lunchbox like?	Non-fiction 2 How big are you?
Class 5	Fiction 1 Poems about the World Book	Non-fiction 1 What were I like before?	Multi-cultural My Jewish Faith	Fiction 1 The Tiger who came to Tea	Non-fiction 2 Sound light	Fiction 1 How do you feel?
Class 6	Fiction 1 Classic Poems Book One and Two	Multi-cultural My Jewish Faith	Non-fiction 1 My Jewish Faith	Non-fiction 1 My Jewish Faith	Fiction 1 The very hungry caterpillar	Non-fiction 2 The Human Body

ナショナルカリキュラムと、指導計画

AUTISTIC SPECTRUM BASELINE ASSESSMENT OF ACHIEVEMENTとして、一人一人の子どもたちに応じたPUPIL RECORD BOOKが作成されている。

その内容は以下のとおり。①子どもの簡単な紹介。②アセスメント検査と結果は、CARS, PEP-Rが用いられている。その報告が最初にされている。続いて行動の記録があり、他の指導者のコメントが続く。七つの項目に応じてコメントがある。最後にRecommendationsとして、六つの項目が示されていて、学ぶための支援の方法などが明示されている。③行動支援プランがある。「好きなことと嫌いなこと」、「感覚」、等がある。④言語療法士からのレポート。⑤IEP。

特質すべきはIEP、2枚にまとめられている。A4一枚にOBJECTIVESとANNUAL OBJECTIVES FOR ACADEMIC YEAR 2005-2006があり、簡潔だ。次の一枚は、TERMLY TARGETS: AUTUMN2005とあり、秋学期のターゲットが四つ示されている。

#### 2) 校内見学

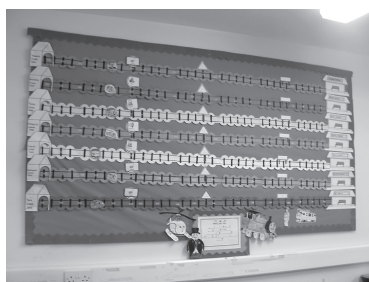
アメリカ合衆国ノース・カロライナ州のTEACCHのアイデアが多く用いられている印象であり、他の特別学校に比べて構造化が進んでいる印象がある。PECS(Picture Exchange communication System:絵カード交換式コミュニケーションシステム)は各教室に用意されているが、フィラデルフィアで見たような肩からかけて歩いている様子はない。一カ所にまとめて置かれている。



スケジュールとブース



PECSブック



各教室にあった「ターゲット」

3) 教師の待遇は、地域の学校のモノと変わらない

NASの運営する学校の教師の身分は、他の公立学校のものと同じだということである。副校長の待遇も同じだということだった。



ジョー・ギャロウェイ女史

4) 全体をとおして

寄宿舎が、常設されていて、保護者のニーズに基づく学校であるため、必要に応じた結果の設置なのだろう。当然、レスパイトサービスも用意されていて、日中の学校への参加もあるということだった。



個人のファイル(上)は、随時閲覧可能になっている。寄宿舎が常設(下)とても整備されていた。

(2) Sybil Elgar School (シビル・エルガー・スクール) NASの運営する全国6つの学校のうちのひとつ。中・高。

インド、パキスタン街のSouthhallという駅から降りて、タクシー(白タク)に乗って5分。入り口が鉄条網で閉ざされていて、セキュリティーがしっかりした感じ。



駅と正門

14:00から16:30 NAS運営の自閉症学校。副校長のJon Brough女史に案内して頂く。

日本の養護学校そのもの。特筆すべきは各教室の作り、芸体類(ダンスや身体表現)の重視。

ラドレッドもそうだったが、先生が皆、腰からカードをぶら下げている。

1) NAS運営の自閉症学校(中・高)

イーリングの民家から始まり、11年前ここに移ってきた。イギリス本土に6校あるうちのひとつである。NAS運営の自閉症学校は、それぞれが独自の特徴を出していて、この学校は、生徒が各学科に分かれた教室を動いていること(つまり学ぶ内容ごとに教室が分かれている(一対一対応))。NASの運営する学校ではあるが、NATIONAL CURRICULUMに準じている。特に五感や体を使った身体表現、ジョギング、自己管理能力などを試みているとのこと。パフォーマンス・アーツと言って、描画ドラマ等、演劇を前面に出している。自分を表現することは、自尊心を高めることにつながり、本学のカリキュラムの中心にある。



校内とジョン女史

案内してくれた教頭先生は、この学校に来て10年であり、特別支援学校（重度の知的障害の学校）で31年間の経験を持つ。

103人の生徒数で、62人が寄宿舎に入っている。

## 2) パフォーミング・アーツの重視

興奮と静寂を作っていくことで、情動のコントロールが可能になる。

表現は、間違いはなく、常に評価される。自己肯定につながる。発表会では他人から評価される。

手をたたいてお腹を触るなど、感覚統合の訓練的な要素も含めている。

呼吸法等、ストレスマネジメントにも取り組んでいる。

## 3) いくつかの質問

**Q1**；カリキュラムは6校一緒ですか？

**A1**；多少違っています。守るべきコア・カリキュラムは、＜コミュニケーション、社会性、自立心、ライフスキル、他人と話すこと 等＞

個人ファイルは、どの学校も同じように使っている。この学校は特に教室を移動するのを特徴にしているの、有効活用している。もう一つ、NASの理念として地域生活を意識した取り組みをしている。そのため、地域に出て活動する時間割も多い。

**Q2**；これだけの専門性を維持するためのアシスタントへのトレーニングは？

**A2**；初日に分厚いブックレットを渡す。6週間

のintroductionトレーニングがあり、とても厳しいものである。毎朝、アシスタントセラピストかスピーチセラピストと行動を共にして、勉強をする。これは子どもを守ることなので絶対に守る。16時から17時までトレーニング・ミーティングがあり、就職してからのパーソナル・スキルの向上に努めている。

一年のうち、5日間は丸一日の研修があり、視覚ツールを使ってトレーニングする。名前の知れた学校なのでNBQを取得するための2年間の研修で来る人もいて助かっている。

**Q3**；小学部と中・高学部の違いを挙げるとしたら？

**A3**；一日の活動を4分割している。変化に順応させる取り組みも始める。多感なときに刺激の多い変化を与えることもある。

**Q4**；編入する生徒はいますか？

**A4**；ほとんどの生徒は中1からの入学者である。編入する場合にはNASを紹介するか、地方教育局を紹介することになる。

**Q5**；移行先を教えてください。

**A5**；Life time care support に行くケースが多い。ただし、イギリスの課題である。就職は稀である。52週間の成人のためのトレーニングに行く人もいるし、3年間のCollegeコースを受ける人もいる。さらにはデイ・ケア・センター、在宅などがある。良いクオリティのデイ・ケア・センターは足りていないと思う。早期の教育が重要である。

**Q6**；本校の内容は素晴らしいです。これをどのように統合された学校に伝えるのですか？

**A6**；教師が相談に来ることも多い。出張の依頼や講演もある。教員向けのトレーニングにはよく協力する。最近はとても熱心に聴く先生が増えてきたと感じている。

**Q7**；この学校で重視していることを教えてください。

**A7**；視覚支援、レッスンそのものの分割（教室移動に教科ごとの学習）、自閉症であることの認識、前向きな態度や行動、長所を伸ばす

**Q8**；自閉症であることの理解についてもう少し詳しく教えてください。

**A8**；中・高生になると、自閉症であることを理解していることが多いので、あなたは～が不得意よねと教えている。大切な問題であるが、自分のパターンを肯定して共に考えてあげることが大切だと思う。ソーシャルストーリーというのがありますが、感情のあるエピソードが重要。I am usualが大切だ。



### ⑤まとめ

熱心な先生だった。人材が素晴らしい。教室がとても整備されていて、教室移動による使い分けはとても有効だろう。子どもたちも理解しやすいし、教室の環境整備も、その取り組みに合わせて変えることができる。今後、日本でもダンスなどのパフォーマンス・アーツにも取り組んでみる必要があるだろう。

## 3. ハート・フォード州の取り組み

### (1) Caroline Wells the manager of the Autism Advisory Team in Hertfordshire(ハート・フォード州自閉症アドバイザーチーム)

ハート・フォード州のスペシャリストアドバイザーサービスへの訪問



玄関

教育委員会に到着すると、メン・コウ・ビカートン女史が出迎えてくれる。

#### 1) メン・コウ・ビカートン女史とエレン・カービーギャロウエイ女史による説明

##### ①イギリスの教育制度とハート・フォード州の紹介及びカリキュラムや制度

イギリスは、5歳からが義務教育であり、ハート・フォード州では、「Specialist Advisory Service」という専門チームを作ってインクルージョン実現のために取り組んでいる。そのための取り組みとして「Base Unit」というクラスを作り、自閉症のある児童生徒の特性に応じた支援方法や配慮について基礎を作る試みをしていることに特徴がある。

現在、Special Schoolはハート・フォード州で13校ある。この中には、NASの運営する学校はLEAの傘下にないため、含まれていない。学校種では区分けをSLD (serious learning difficulties), MLD (Middle learning difficulties), ELD (Emotional learning difficulties) に分けている。

約1000人のASD (自閉症スペクトラム) が存在

し、60～65%がメインストリームで、35～40%がスペシャルスクールに在籍している。



メン・コウ・ビカートン女史

##### ②教師支援の制度 (アドバイザー・ティーチャー等) と統合教育へ

ハート・フォード州の「Specialist Advisory Service」の体制は、2人の「アドバイザー・ティーチャー」が中心で、その下に4人の「VT;ビジティング・ティーチャー」、それぞれスペシャルスクール担当(4人)、メインストリーム担当(4人)がいる。この人たちにはスペシャリストの資格試験(経験も含む)がある。その配下に同じく6人ずつのSSW(たぶんスペシャルサポートワーカーだと思う)がいる。

サポートの体制が整っていれば、メインストリームの実現可能性は高くなる。

##### ③「Specialist Advisory Service」のトレーニング

トレーニングも盛んに行われている。メインストリーム実現のために、「このような研修を企画しましたので来ませんか?」というような誘い方で、強制ではない。

サービストレーニング	1day	小学校以前の幼児のために
キーステージ I + II	2 day	小学校の児童のために
小学校から中学校への引き継ぎ	1day	小・中学校への引き継ぎのために
中学校のトレーニング	1day	中学校の生徒のために
スクールベース		事例研究を行う
自閉症の認識と理解		自閉症の認識のために
Concentration and Attention Skill		集中と注目のスキル
Play and Cognitive Skill		遊びと認識のスキル

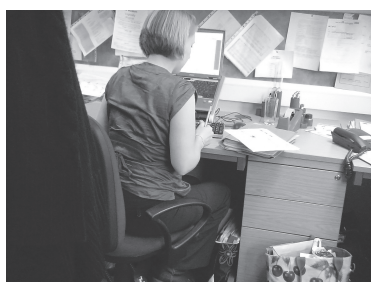
##### ④ステイトメント作りとその内容

実際の事例を元にステイトメントについて紹介をしてもらった。内容は、子どもの紹介、家族状況、

医療情報, アセスメント (CARSやPEP-Rが用いられていた), IEP, 一年間の教育目標等である。ステイトメントは, 教育局の担当者がまとめることになっていて, 各担当が書類を作成する。メインストリーミングの学校には, アドバイサー・ティーチャーが書いて参考にしてもらうこともあり, とても喜ばれている。一年に一度, 見直しをする。

各学校で対応はできるが, 各スペシャリストの先生が100人を担当しており, 学校心理士なども活用しながら, 学校のためのアドバイスに取り組んでいる。

\*当日も, これからアドバイスに行くそうで, とても多忙だと言っていた。



<ステイトメントの項目>

Hertford shire county council children, schools & Families

Part 1) Introduction

2) Special educational needs

Educational Communication, Personal, Social & Emotional, Motor and sensory skills

Independence skills, Early Learning skills, Gross motor skills (運動動作), Eye hand and Physical skills, Play and Thinking skills, self help skills (トイレに行けるなど)

3) Special educational Provision

a) objectives

b) Educational provision to meet need and objectives

Education

Communication

National Curriculum Implications Monitoring

Record of Assessment (合意書)

⑤早期教育がとても大切である

ロバース法までは行かないが, 早期から, 保護者のトレーニングに取り組んできた (最終日のウッドグローブ・スペシャルスクールの校長もそのメン

バーだった)。早期からの教育がとても大切である。

⑥まとめ

INTERACTIVE (相互作用する) <ソーシャルコミュニケーションやミュージックで取り組む>, BEHAVIOR (行動する) <主体的に活動する>, COGNITIVE (認識する) <自分自身の理解や他人への配慮>を大切にしており, この三つの相互作用がハート・フォード州のポリシーである。

\*イギリスの教育制度の表示は, Y1 ~ Y11までであり, Y11からはカレッジに移る。

#### 4. ハート・フォード州立学校の取り組み

##### (1) Killigrew Junior School (キリグリユー・ジュニア・スクール)

統合教育と行っている year 3, 4, 5, 6, (日本でいうと8歳から11歳) の子どもを対象にした学校で, イギリスでは珍しい。全校生徒が249名。先生が11名で, アシスタントが11名である。白人が90%以上を占めていて, 全国のランキングも上位の学校。副校長が案内してくれた。



玄関と駅

1) 副校長による学校紹介 (校長が不在のため。)

事前情報は, ステイトメントのある子が3名, スペシャルエデュケーションニーズのある子が48名とあったが, 過去の学校評価の際の資料をHP公開しているものであり, 現在は, スペシャルエデュケーションニーズのある子が30~40名である。ステイトメントを持っているのは2名。

全体的に学力の高い学校であり, 教育省からの監査も上位に位置している。そのためあまり監査は気にしていない。

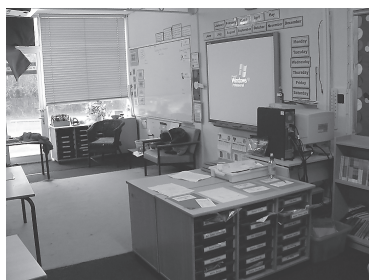
全国の統一テストが11歳で行われるが、文章題が苦手な子どもなどには、手助けをする仕組みがある。

#### ①カリキュラムについて

イギリスの学校の伝統であるが、国語と数学のみ能力別で分けている(TOP, MIDDLE, LOW)。ラーニングサポートティーチャーが2人いて、STが必要な子にはさらに一人付いている。



副校長 (右)



各教室にプロジェクターとスクリーンが常設されている

定期的に特別支援教育コーディネーターが来る。その先生はパートタイムで週に三日だけ(とても親切に対応してくれた年配の女性)。その際に、7~12歳までの少人数を集めてグループ指導を行う。弱いところを徹底的にトレーニングする。ディスレクチュアの子も、もちろん対象であり、現在30~40人程度である。

#### ②校内見学

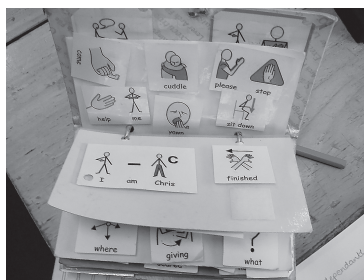
各教室にプロジェクターが用意されていて、PCを使った授業が多かった。ASDの子どもにとっては、たいへん有意義だと思った。

実際の場面では、ASDの子どもが一人、黒板と逆の方向にあるパソコンに向かって、なにやらゲームをしていた。そのASDに一人のアシスタントが常駐していて、クラス内でASDの子の姿を見ている感じである。その先生は、「Widget」というコミュニケーションソフトを使って、彼が分かりやすいように時間割を作ったりしていた。この学校では「Widget」が目立った。なぜASDの子が逆の方向を向いているのかと聞いたら、彼は今、カームダウン

していると言っていた。



自己紹介の絵



PECS



Widgetの画面

#### ③IEPの作成について

ハート・フォード州のチームで紹介されたとおり、統合された学校でIEPがいかにならされているかを聞いた。クラスの先生が作成し、SENCOがまとめるそうだ。Early alert と呼ばれる「早期の警告」の仕組みがあって、気になる子はその用紙に記入してSENCOに報告しアドバイスをもらうそうだ。親が拒否することもあるのでは?という質問には、ディスレクチュアだから、親は拒否することは一度もないという回答があった。

最近では、三段階にクラス分けをしている。試験の結果によるものであるが、自分からクラスのレベルを下げて学習することを希望することもあり、子どもたちの意識に変化が起こることはない。

#### ④全体をとおして

一緒にいることが統合とは言えないが、カリキュラムとタイムテーブルは違うそうだ。できるだけクラスの子どもたちと一緒にいることが目標だそうだが、先生が常に付いていて、どうかなあと思った。

日本でも同じ問題が起こっていて、とても興味深かったが、イギリスは手厚いなあと感じた。これほど手厚ければ、何とかなるかもしれないし、実際に視覚支援は個に応じていた。

最後に、教育内容について尋ねたところ、社会性とコミュニケーションに力を入れた特別のカリキュラムを組んでいることと、学習面では体育や音楽、美術、宗教、家庭など、Hands onがとても有効だと回答を得た。



各教室の掲示とビニールハウス

BASE」が設置されていて、そこに来ている生徒は重度だ。担当のベテラン教師は、私たちの取り組みはとてもユニークなので、と言っていた。ティーチングアシスタントが、テキパキと働いていた。

校内も、まさに養護学校であり、校庭が果てしなく広いのを抜かしては、ほとんど同じ感じがしてホッとした。

各教室の掲示の工夫や、「Widget」というコミュニケーションソフトを多用した取り組みなどが目についた。

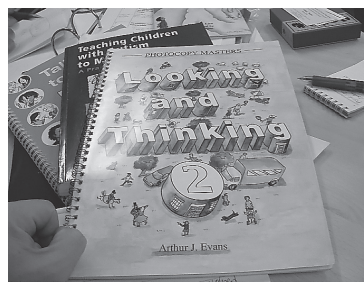
2) 「Autistic Awareness」自閉症と知っていること「ベース」にいる先生は、「Autistic Awareness」、社会性のスキル、休むことや遊びを重視していると言っていた。中でも「Autistic Awareness」は、とても重要であり、様々な取り組みを行っていた。

この取り組みは、11歳から12歳の生徒に試して有効だったため、13歳から14歳にも継続した。

## (2) ST Luke's School (公立のスペシャルスクール)

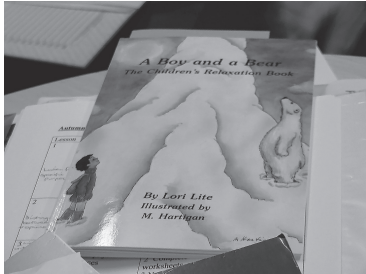
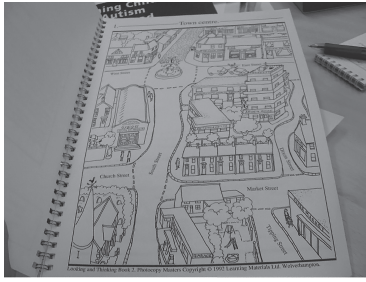


正面玄関



### 1) 養護学校の中の「AUTISM BASE」

養護学校の中・高等部である。その中に「AUTISM



### 「Autistic Awareness」のための教材

#### 3) スペシャルスクール在籍生徒の今後

「Legedencial college」は、16~19歳の学習障害の人のためのカレッジ（寄宿舎制）のため、言語がない人たちは入れない。

19歳になるまでに入所施設に行くようなことはなく、必ず学校に行く。

この学校を卒業(14歳)した後は、SLDの学校か、「Legedencial college」に4年間行く。

19歳以降になれば、Supported Livingもある。

四人の利用者に一人がサポートするグループホームもあるが、コストは自分たちが払うことになる。



#### (3) ウールグローブ・スペシャルスクール (Woolgrove School)

A Primary Special School for Children with moderate learning difficulties in Letchworth Garden City



駅と正門

#### 1) 学校の紹介

1日目に訪問したハート・フォード州の教育委員会自閉症チームに斡旋して頂いた学校である。「AUTISM BASE」を設置していることに特徴があるスペシャルスクール（プライマリー<幼小>）。全校生徒110人で、50%が自閉症である。校長先生曰く、最近は自閉症の児童の入学が増えているが、自閉症だけの学校にはしたくない。それは他の子ども在籍することで、お互いのモデルとなるケースが増えるからである。入学希望者は多い。

早く到着したため、朝の集会を見学した。校長先生が、今日の仮装の話と、宿題などをがんばった子どもに向けて、トークンシールを体に貼ってあげたりしていた。イギリスの小学校等ではよくある光景らしく、皆が拍手をして讃えている。

MLD（ミドル・ラーニング・ディフィカルティ）とあったが、確かにシビアな子は少数である。お話も聞けるし、各教室にあった「ターゲット」も理解できる子がほとんど。

4歳から11歳の子どもを対象にしている（イギリスで言うY1~Y7）、それぞれ主任がいる。各学年レセプション1と2のクラスに分かれていて、1クラス8人（インファント<幼児>）、10人~12人がジュニアクラスである。先生の配置は、ティーチャー1人、アシスタント1人、2クラスでシェア

する保育士1人。ただし、「AUTISM BASE」(定員10人)は、ティーチャー2人、アシスタント2人、保育士2人である。

110人は、ほとんどがタクシーで登校する(イギリスにはこの制度が確立しているようだ)。保護者の送迎は無い。30分圏内(地元)にいる子どもが全てである。途中で他校へのインクルーシブが可能ならチャレンジをすることが前提だが、保護者の中には拒否する人も出てきた。

## 2) 特徴～「自閉症の子どものための教室」

「AUTISM BASE」と名付けられた自閉症の基礎教室が設置されている。設置の主な目的は、自閉症の特性に応じた支援、例えば構造化やスケジュールなどの取り組みをしていることである。

「AUTISM BASE」(定員10人)は、ティーチャー2人、アシスタント2人、保育士2人である。インファント(幼児)がほとんどで、ジュニアになるとほとんどがインクルーシブすることが多い(ここで言うインクルーシブするとは、スペシャルスクールの中でのことだと思う)。

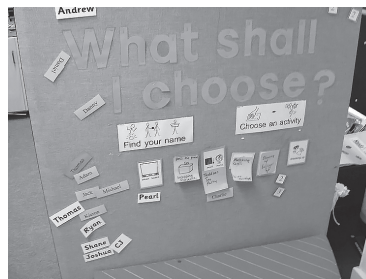
教室は、センソリアルームがイギリスには珍しくなくて、代わりにスポンジルーム(齊藤ネーミング)がある。カムダウンとトークンに使っているようだ。PECSは常備されていた。VOCAもたくさんあったが、「AUTISM BASE」だからという感じではなく、どこにでもある。

指導者が手厚いので、「AUTISM BASE」から先生が付いて通常のクラスに参加することもあるが、クラス担任が担当できることが多い。

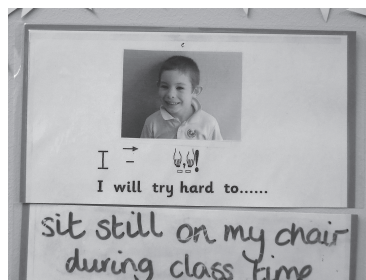


カムダウンエリアのドアとPECS

## 3) 全校生徒、各教室の様子から

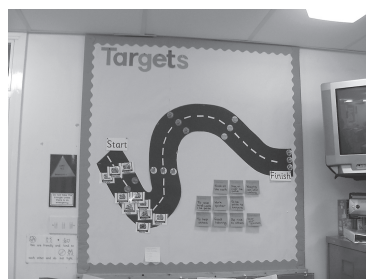


選択肢

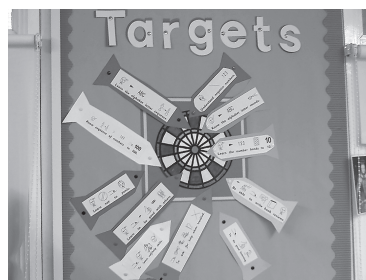


個人の目標「授業中は着席し続けます」

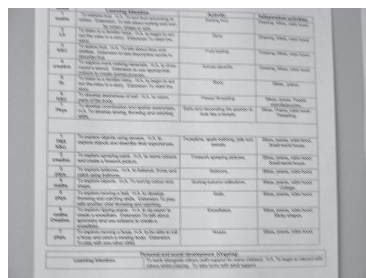
ターゲットが必ず用意されていることや、週案も作られていて、教室内に掲示してあった。様々な教材が準備されていることに加えて、教師がトレーニングされていることが伝わってくる。絶対に大声を出さないし、正面を向いて話しかける。



ターゲット



ターゲット



週案!

#### 4) 校長室に戻っての質問

**Q 1** ; 「AUTISM BASE」についてどのように成立していますか？

**A 1** ; 全校の50%が自閉症である。「AUTISM BASE」の子どもはニーズが複雑になってきています。以前は、ほとんどがインクルーシブすることができましたが、現在の在籍児のうち2人は「AUTISM BASE」に残る子どもだと考えています。集会等は合同で参加しますが、基本的には、「AUTISM BASE」での活動をするようになります。この学校では言語、音楽、アートのセラピストがいて、それぞれのニーズに応じて対応しています。

**Q 2** ; セラピストの雇用に資金がかかるでしょう？

**A 2** ; 言語と心理のセラピストは州から来ますが、学校で雇っている劇のセラピストなどは特別です。校長が予算管理者なので校長の判断でやっていますが、成果を判断するのが難しいです。唯一の制限があるとしたらナショナルカリキュラムに基づいているかと言うことであり、それ以外は自由です。政府機関から監査はあるが、差が出ることはあまりありません（もともと校長経費が潤沢なんだろう）。認定されていた期間が過去に3年あって年間3万ポンドあったが、そのキャンペーンは廃止されました。

**Q 3** ; 「AUTISM BASE」で終わる子はいますか？

**A 3** ; 5年生までいた児童はいるが、ケースは少ない。長くいるとしたら、この「AUTISM BASE」のコンセプトに合わないということなので、他の学校に移ることが多い。

例えば、NASの運営のラドレッド（一日目に訪問）に行った児童は、保護者の家庭環境の問題で、寄宿舎のある学校でなければならなかった。

**Q 4** ; NASの学校との違いは？

**A 4** ; ラドレッドなどにはなかなか入れないし、有料なのでたいへんである。寄宿舎等があるし、手厚いので希望する人も多いのではないか。

**Q 5** ; 卒業や移行先は？

**A 5** ; 近くの町にある軽度の知的障害の中学校に行くか、同じ地区の重度の知的障害の中学校に行く。

**Q 6** ; 転校するとしたらSLD（シビア）ですか？

**A 6** ; そのとおりです。一人だけラドレットに行ったが、入学するのはとても難しい。

**Q 7** ; 6年生までどの位の学力が付きますか？

**A 7** ; 理科（サイエンス）が優れている。読み書き、算数は11歳で6~7歳の能力。それ以上の子は、すぐにメインストリーミングの学校に移行します。

**Q 8** ; この学校に入学するのは保護者の希望ですか？この学校を保護者が希望する理由は？

**A 8** ; たいていは一般の学校で不適応を起こした子どもである。ほとんどがステイトメントをもらっているのだから、この学校が良いと聞いて来ることが多い。希望する理由は、クラスが少ないことや指導者が手厚いことなどを挙げる保護者が多い。

**Q 9** ; どうやって入学してくるんですか？

**A 9** ; 4歳児から入学してくるのは少ない。だいたい途中から編入である。6年生の一年間だけ入学した児童もいる。

**Q 10** ; 「AUTISM BASE」はなぜ必要でしたか？

**A 10** ; 構造化が必要だし、それを用意してあげることは大切な試みである。適応するための環境作りが第一だ。学校全体のルールを学ぶ機会も必要だし、色々なアプローチを集中的に行うためにも有効である。

**Q 11** ; 先生たちの専門性が高いですね。どのようにトレーニングしていますか？

**A 11** ; 「AUTISM BASE」のスタッフが多いので、自然に伝わることもあるが、建物の経費などには多くを費やさずに、トレーニングに経費をかけているのが校長の方針である。チーム全体で長いディスカッションの中で取り組んでおり、アシスタントにも同じだけのコストをかけている。たくさん教師に研修に行かせたが、その教師たちが、取り組んでみたいことは全て実行する意欲的なポリシーを大切にしている。そういう文化を創ってきた。

**Q 12** ; スタッフの辞職期間は長いのですか？

**A 12** ; 比較的長い。7年間平均くらいであり、特徴は、退職教師を2名、新人を2名という具合に、バランスを保っていることである。

**Q 13** ; 日本では自閉症の社会性がターゲットになっているが？

**A 13** ; ここでも同じである。「AUTISM BASE」とノーマルクラスの両方で行っている。順番を守ったり、お互いのことを理解したりする。そのためには、私が設計者だったらもう少し「AUTISM BASE」の教室を校内の中心に設置したと思う。そうすれば様々な活動に参加しやすいだろう。

Q14;全ての教室で視覚支援が優れていましたが、これは「AUTISM BASE」ができたからですか？

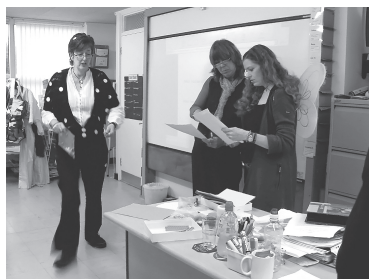
A14;そのとおり。特に「AUTISM BASE」のマネージャーが努力している。

Q15;「AUTISM BASE」では、どんな段階を踏んで学習を進めていますか？

A15;三段階あります。①入ってきたばかりの児童には、ワークステーションの個人指導をします。ここで安定した環境を作ります。②他の部分、集会やグループ学習などでの環境作りをします。③外側にある環境、ここではノーマルクラスでの環境作りをします。ただし、「AUTISM BASE」の児童が教室に行くのは集会等だけです。他校との交流は、水泳、乗馬、牧場体験などがあります。

Q16;この地域の保護者支援や診断の状況は？

A16;ファミリーサポートとして「チュータリング制度」があり、「アーリー・ディベロップメンタル・クリニック」から診断を受けた後で、教育局に依頼があり、そこから早期療育のために自宅を訪問するシステムです。校長の私もこの担当でしたが、この制度のお陰で、子どもたちの理解や学校へのスムーズな移行が可能になりました。



校長先生による新任の先生への授業研究（コメントしている場面）

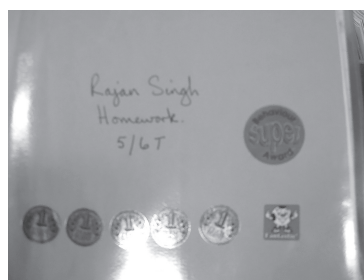
#### 5) 全体をとおして

この学校の水準は相当高い。週案もあり、ほとんどの技法やV O C A等があった。職員がトレーニングされているのが見事だったし、療育の成果が明らかだった。日本の養護学校にもまず低学年には

「AUTISM BASE」を作って取り組んで見るケースを作っても良いと思う。



視覚的に授業が行われていた



宿題帳にトークンシール(既製品!)が貼られている

#### 最後に

制度は確かに10年先を行っている。しかし、最初は皆、2~3人で始めたことが何度も強調された。「政府は、自分たちの取り組みを制度として認めたのである」。これは日本の福祉政策には、当てはまるかもしれない。しかし、教育はどうか？学校制度は政府のリーダーシップの下で始まったと言えるだろう。日本人にこの感覚を超える価値観がないと、絶対にたどり着けないかもしれない。

イギリスの特別支援教育制度は、自分たちが勝ち取ったものだ。だから、自分たちの制度である。それを推進するのも、発展させるのも、誇らしく思うのもそのためである。

取り組みや、具体的なプログラムはそんなに離れていない。専門家としての誇りをかけて、仕事に取り組む、そんな当たり前のことを思い出した気がする。